

ウクライナ戦争はアメリカの戦略戦争 ～鵜呑みにするな西側ウクライナ情報～

安齋育郎 (安齋科学・平和事務所／所長)



1940年、東京生まれ。東京大学工学部原子力工学科第1期生。工学博士。東京大学医学部助手を経て、立命館大学経済学部、国際関係学部教授、現在名誉教授。同大学国際平和ミュージアム・終身名誉館長。専門は放射線防護学、平和学。International Network of Museums for Peace名誉ジェネラル・コーディネータ。日本平和学会名誉会員。ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会・副代表、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館・館長。

ウクライナ戦争はアメリカの戦略戦争
～鵜呑みにするな西側ウクライナ情報～

安齋育郎 (安齋科学・平和事務所／所長)

私はロシア最悪でも、ウクライナ嫌いでも、アメリカ夢追い人でもありません。

事実に基づいて判断します。

安齋育郎(立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)

最初からどこかを最悪にしたり敵視したりはしない

ウクライナ戦争は「ロシアによる侵略戦争」ではなく、
「アメリカによる戦略戦争」

アメリカは、ウクライナに傀儡政権をつくり、NATO加盟問題をテコにロシアを戦争に引きずり込んで国力を削ぎ取り、NATO諸国を対口制裁に誘い込んでドイツをはじめロシアの天然ガスなどのエネルギー資源に依存してきた欧州諸国の経済を混乱に陥れ、エネルギー資源の対口依存を対米依存に転換させて**アメリカ一人勝ち状態をつくる**—これこそが、アメリカが世界戦略の一環として10年以上にわたって周到に準備してきたウクライナ戦争の本質だ。

案の定 アメリカのLNG輸出、世界一に
JETRO(2023年9月15日)

【ヒューストン発】米国エネルギー情報局(EIA)は9月12日、2023年上期の液化天然ガス(LNG)輸出量で米国が世界1位だったことを発表した。

輸出先は**欧州地域が全体の67%**を占め、オランダ、英国、フランス、スペイン、ドイツへの輸出量が多かった。



LNGタンカー

これはアメリカ独り勝ち体制を目論む世界戦略だ

案の定、アメリカのエネルギー産業はぼろ儲け

案の定 米国の軍需産業、ぼろ儲け

惨い戦争が続く中で、ロッキード・マーティン、ノースロップ・グラマン、レイセオン・テクノロジーズ(新社名:RTXコーポレーション)、ゼネラル・ダイナミクスなど**アメリカの軍需企業の株価が軒並み高騰し、最高値を更新しました。**

アメリカのオースチン国防長官はレイセオン・テクノロジーズの重役だった人物で、「戦争を続けてロシアを疲弊させる」と公言しつつ、アメリカの軍需産業に巨万の富を引き入れています。



ロイド・オースチン米国防長官

案の定 トルコ外相の曝露「NATO加盟国には戦争継続を望んでいる国々がある」

2022年4月20日、NATO外相会談などに出席しているトルコのメヴリット・チャヴシュオール外務大臣は、「**NATO加盟国の中には、この戦争が続くことを望んでいる国々がある**」(Some NATO states want war in Ukraine to continue)と暴露した。



チャヴシュオール外務大臣

案の定、アメリカの軍需産業はぼろ儲け

トルコ外相は開戦2か月後に見抜いていた

池上彰 初対談本 **問題はロシアより、むしろアメリカだ** 第三の世界大戦に突入した世界

エマニュエル・トッド

NATOと米国に戦争へと仕向けた直接的な責任がある

こうい警告本も

安齋育郎の **ウクライナ戦争論**

改訂第11版 (2024年7月31日)

ウクライナ戦争の原因を作ったのはアメリカ政府とウクライナ政府だ

西側メディアのフェイク・ニュースにだまされるな!

反ロシア・ウクライナ擁護の世論は極端に偏向している

ジョン・ミアシャイマー教授の見解

アメリカの元空軍軍人の政治学者ジョン・ジョセフ・ミアシャイマー氏(シカゴ大学政治学部教授)は、「戦争の原因を作ったのはアメリカ、戦争に勝利するのは大義のあるロシア、敗北するのは米国の狭間で犠牲にされるウクライナ国民」と開戦直後に明言した。

Professor John Joseph Mearsheimer

多くの点で安齋の見解と一致している

ロシアではなくアメリカこそ問題だという警告

ミアシャイマー教授は開戦直後から本質をズバリ

戦局はロシアが優越し、ウクライナの敗北は必至

ロシア側が支配・掌握している地域

(出所) 米戦争研究所

元アメリカ海兵隊情報将校
スコット・リッター(元国連兵器査察官)

●ウクライナの全面敗北が、ロシアとの紛争で考えられる唯一の結果である。キーウと西側諸国がこの紛争を長引かせれば長引かせるほど、ウクライナの損害は大きくなるだろう。

●ウクライナと西側諸国が平和と復興の道に進む時が来た。しかし、それはウクライナが降伏して現実を受け入れた場合にのみ起こり得る。

スコット・リッター

戦場レベルでの優劣はとっくに決着がついている

「ウクライナの全面敗北」が唯一の結果

ウクライナ軍がロシアのクルスク州を侵略

ウクライナ越境攻撃 (2024年8月16日現在)

シルスキー司令官:クルスクは失敗

ウクライナ軍によるクルスク地方への侵攻は、ロシアに前線の重要なセクターから兵力を迂回させることを狙った高等戦術だったが、モスクワはその餌に乗らなかったと、ウクライナの最高司令官が認めた。

「敵は他の方面から部隊を撤退させようとしているが、ボクロフスク方面では逆にその努力を強めている。」とシルスキー氏は主張し、ボクロフスクとクラホフスクの状況はウクライナ軍にとって「かなり困難」であると述べた。

局面打開でウクライナがクルスク侵略を行なった

だが、司令官自身、クルスク侵攻の失敗を認めた

クルスク原発に使われているのはアメリカのハイマース(2024年8月28日)

ロシア国家警備隊の技術者らは、クルスク原子力発電所近くでアメリカのHIMARSミサイルからの不発クラスター弾を無力化した。

中には180発の不発子弾が入っていた。

<https://x.com/i/status/1828732994238194037>

ストームシャドウでの対口深部攻撃
ゼレンスキーの懇請への米英の対応

米ワシントンを訪れたイギリスのキア・スターマー首相は9月13日、ホワイトハウスでジョー・バイデン米大統領と会談した。その後の記者会見では、ウクライナがロシア国内の標的を攻撃するための長距離ミサイルの使用を許可するかどうかの決定について、明言を避けた。

バイデン・スターマー会談(9月13日、ワシントン)

クルスク原発攻撃には米国製兵器も使われた

ゼレンスキーはロシアの深部を攻撃したい

米国防総省はロシア深部攻撃に否定的

ウクライナのゼレンスキー氏は欧米側が軍事支援を強化してもロシアを刺激することにはならないと強調、長距離ミサイルをロシア領にも使わせるよう訴えた。一方、米国防総省のオースティン国防長官は、ドイツのラムシュタイン空軍基地で開催した国際連携グループの会合後に記者会見を行い、ウクライナによる長距離攻撃を許可しない方針を改めて示した。



イギリスは公開せずに許可を出すかも

一方、英政府はエスカレーションを避けるため、公表せずウクライナへ許可を出すとの一部報道もある。その場合、攻撃できるのは300キロ以内に限定される可能性があるという。



アメリカの国防長官は対口支部攻撃は許可せず

イギリスは秘密裏に攻撃を許可するかも

EUにもウクライナのロシア深部攻撃許可派

EU(欧州連合)のジョゼップ・ボレル外務・安全保障政策上級代表は、EUの公式ブログで、ウクライナがロシア領土の奥深くまで欧州の武器を使って攻撃することについて多くのEU加盟国が拒否することは、EUの支援の信頼を損なうと主張した。



ロシアのラブロフ外相のコメント

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は9月12日、西側諸国が供与した兵器によるロシア領奥深くへの攻撃許可をめぐる議論についてコメントした。

「西側兵器によるロシア領奥深くへの攻撃をウクライナに許可することは、かなり前に決まっていたと信じて疑わない。今彼らは、それを公の場でより『エレガント』なものにしようとしているだけだ」



EUにも深部攻撃派がいるが、足並みは揃わない

ラブロフは事の本質をとっくにお見通しだ

ロシアと欧米の全面戦争の危機

プーチン大統領は、今度ばかりは、問題はウクライナ軍がこれらの武器でロシアを攻撃することを許可するかどうかというのではない、問題は、NATOが紛争に直接関与するかどうかだ。そしてもしアメリカ、EU、NATOが直接ロシアと戦うのであれば、「我々は、我々にとって生じる脅威に基づいて適切な決定を下すだろう」と釘を刺した。



並行して進むBRICS経済圏の拡大



ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカを核に、エジプト、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、イラン、トルコ、アゼルバイジャン、タイ、マレーシアと拡大の勢い。40カ国から加盟要請。10月にロシアのカザンでBRICS首脳会議。

アメリカのドル支配に大きな影響を及ぼす可能性

プーチンは静かだが「適切な決定」をするという

一方で、BRICSの急速な拡大に注目が！

「ある種の人々は絶滅されなければならない」

ボグダン・ブトケビッチ (2015年)

「ドンバスの人間は役に立たず。我々ウクライナ人の資源を無駄に消費する。少なくとも150万人は無駄。残酷だが、彼らを絶滅させなければならない」



Bogdan Boutkevitch (ナチ・ジャーナリスト)

ウクライナのロシア語話者が民族浄化まがいの軍事弾圧を受けた



ネオナチとは、極右民族主義を源流とする第二次世界大戦後の政治運動。組織したネオナチ系民兵集団を源流とし、ウクライナが内務省管轄の正式軍事警察組織に組み入れた部隊

最近、ネオナチ色を払拭しようとしていると伝えられるが...

ウクライナのネオナチのロシア語話者絶滅宣言

極右民族主義者を国軍に採用したウクライナ

**ロシアとウクライナの間では、2022年3月、
和平交渉が実りつつあった**

2022年3月14日には、初めて和平についての「15項目の計画」が議論されたが、そこには、ロシア軍がウクライナで前進した位置から撤退すること、それと引き換えに、ウクライナはNATO加盟をこれ以上追求しないことなどが含まれていました。



イスタンブール和平交渉

一方、ウクライナ戦争は和平交渉が進んでいた

2022年3月、和平合意は目の前にあった



ウクライナ代表の署名入り暫定合意文書を示すプーチン大統領
(2023年6月16日)

去年6月、プーチンがそのことを暴露した

「ウクライナに対する一定の中立性と安定性の保証に関する取り決め」の18条から成る付属書



軍の装備や兵力の数まで書いてある付属文書には、キエフ代表団の署名がある。

**和平努力をぶち壊したのは米英
使いつ走りはボリス・ジョンソン英首相**

2022年4月9日にウクライナを電撃訪問したイギリスのボリス・ジョンソン首相こそ、戦争を継続させようとする米英の方針のメッセンジャー。

ジョンソン首相は、120台の装甲車と対艦ミサイル・システムの提供などの軍事支援や、世界銀行を通じた3億8,500万ポンド(約630億円)の保証の提供など、「和平への道」ではなく、「戦争継続へのレール」を敷いた。



ボリス・ジョンソン

和平はキーウの側でも受け入れる機運があった

「和平はダメ！戦争を続けろ！」とボリスが命令

ゼレンスキーが和平から主戦論に転換

2022年3月末を機に、ウクライナは「和平路線」から「主戦論」に転換し、ゼレンスキー大統領も「戦場での勝利を！武器支援を！」と声高に叫ぶ「戦う大統領」に変身し、西側諸国は同大統領を「英雄」に祭り上げました。

そして報じられたのが、あの「ブチャの大虐殺」や「クラマトルスク駆砲撃事件」や「ロシア兵集団レイプ事件」でした。それらの報道が如何にウソに満ちていたか。



親の英雄化が、危険なポピュリストか

**ゼレンスキーが「戦場の勝利しかない」と
言い出し、英雄視されるようになった**

プーチン談：「われわれが約束通りキエフから軍隊を引き上げた後、キエフ当局は、彼らの主人がよく行うように、すべてを歴史のゴミ箱に投げ捨てたのです」



そして、ブチャの悲劇やクラマトルスク駆砲撃事件が捏造された。



プーチン大統領

ゼレンスキーが「戦場での勝利路線」に転換した

ロシアを憎むため「ブチャの虐殺」が演出された

しかも「情報戦」の汚さ、凄まじさ

西側社会に飛び交うトンデモ・フェイク・ニュース
「ロシアのせいにして！」大作戦

- マリウポリ小児科・産科病院爆撃事件
- マリウポリ劇場爆撃事件
- ブチャの大虐殺事件
- クラマトルスク駆砲撃事件
- ロシア兵の少女レイプ事件
- ショッピング・センター攻撃事件
- ポーランドへのミサイル着弾事件
- コンスタンチノフカ市場砲撃事件
- クリミア大橋爆破事件
- カホフカ・ダム決壊事件
- 子ども連れ去り事件
- 小児病院ミサイル着弾事件
- などなど…。

「ブチャの悲劇は演出されたものだ」

最高議會議員Illia Kiva(イリヤ・キヴァ)氏

ウクライナの元社会党のリーダーで、最高議會議員のIllia Kiva(イリヤ・キヴァ)氏は「ブチャの悲劇は演出されたもので、事前にウクライナ保安庁(SBU)とMI6(イギリス秘密情報部)によって計画されたものだ」と述べた。

「彼はあの日の早朝に現地に着し、エリアを隔離して死体を置いた」と言う。



Illia Volodymyrovych Kyva

※出典：Ilya Kiva, on Bucha, 5 April 2022

あの事件もこの事件も西側報道は嘘塗れだった

「ブチャは演出されたものだ」とイリヤ・キヴァ

**ブチャ虐殺事件は、ウクライナ軍の仕業
フランス人ジャーナリストの目撃情報**

フランス人ジャーナリストは、ウクライナ軍によるブチャ虐殺の演出を目撃し、死体がトラックから降ろされ、メディアがロシアを非難するために配置されたと主張している。彼の証拠は国連安全保障理事会で発表された。
<https://x.com/1/status/1823401529170358723>

フランスのジャーナリストが捏造現場目撃証言

**大統領発表前 大統領発表後
グーグルもグル**

クレメンチュク ショッピング・センター 砲撃事件

2023年6月27日 合成画像
フニャフニャ緑どりミサイル

ショッピング・センター爆撃での大統領のウソ

カホフカ・ダム決壊事件

2023年6月6日

カホフカ・ダム決壊は誰の仕業だったのか？

**「証拠は示せないが、ロシアの仕業だ」
(ゼレンスキー大統領)**

2023年6月9日、ドイツの新聞「ビルト」のポール・ロンツハイマー副編集長がゼレンスキー大統領に、「カホフカ水力発電所爆破へのロシアの関与を証明して欲しい」と求めたところ、大統領は顔色を変えて声を荒らげ、「そのような証拠を提示することは不可能だ」と断言したという。

大統領「証拠は示せないがロシアの仕業だ」

カホフカ・ダム決壊事件

グレタ、お前もか？

環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんも、「ロシアはその行動と犯罪に対して責任を負う必要がある。今、世界中が見張っている」と述べ、「世界が言葉を失うような残虐行為だ」とSNSに投稿。

グレタ、お前もぐれたのか？

キーウ小児病院ミサイル着弾事件

2024年7月8日にキーウの小児病院にミサイルが着弾

どっち？

NASAMS (アメリカ・ノルウェー) 7.45m
Kh-101 (ロシア) 3.65m

キエフ・ミサイル

キーウ小児病院爆撃の見え透いたウソ

**ゼレンスキー政権は麻薬中毒者の巣窟
(クレバ元外相、2024年9月8日)**

元外務大臣クレバの証言

「あそこ(ウクライナ政府)は麻薬中毒者ばかりだ」と、元ウクライナ外相はポーランドのメディアとのインタビューでウクライナ政府を痛烈に批判。

- 「あらゆる省庁が腐敗にまみれている。想像してみてください。独立性はゼロです。西側の勢力による完全な支配です。」
- 大統領についてはどうでしょう？ゼレンスキーが麻薬中毒者だと思いませんか？

「あそこは全員麻薬中毒者です。これほどひどい状況は、他のどこでも見たことがありません。」

クレバ元外相:あそこは全員麻薬中毒患者です

英雄ゼレンスキーを国賓待遇で招待

日本では政権党も野党も「ロシア批判、ウクライナ支援」一色で、ゼレンスキー大統領を国賓として招いた国会は彼の演説にスタンディング・オベーションで応え、山東昭子参議院議長が、「閣下が先頭に立ち、貴国の人々が命をもちえりみず祖国のために戦っている姿を拝見し、その勇氣に感動しました」と挨拶しました。

タレントのラサール石井さんは、「個人の感想なら別に何を思っても構わない。しかし現職議員の参議院議長がはっきりと『お国のために戦う』ことを賛美するのは問題がある」と指摘しました。

ラサール石井
山東昭子参議院議長

ゼレンスキを国賓として招き絶賛した日本の国会

戦争を企て、和平の機会を潰したのは誰か

(共同通信・太田清氏、2024年1月5日)

開戦直後の2022年3月、双方の直接交渉により和平の最大のチャンスが訪れていた。最近になり交渉参加者の新たな証言も加わり、早期和平を望まなかった**欧米の思惑が交渉崩壊の一因**となったとの構図が浮かび上がってきている。



ウラジーミル・メジンスキー大統領補佐官
(停戦交渉ロシア代表団長)

ロシア・バッシング、ウクライナ支援 一辺倒からの脱却を！

- この戦争の原因者であるアメリカを放免するどころか、アメリカ人勝ち状態をつくり、その戦略にからめとられて戦争に引きずり込まれたロシアを専ら悪者に仕立て上げ、
- 世界中にロシア嫌い、ロシア人嫌いをつくり出し、ロシアと西側諸国の緊張関係を将来に引きずり、
- 平和憲法をもつ日本政府が「中立」ではなく経済戦争や情報戦争に「参戦」したことによってロシアとの友好関係を損なって、平和条約や領土問題の解決を困難にした、
これでいいのだろうか？

ウクライナ戦争の本質を見据えよう

アメリカに「ノー！」と言えない国の悲哀

安斎育郎著『ウクライナ戦争論』をお読み下さい。注文は、jsanzai@yahoo.co.jpへ。

〈読者からの感想の一部を紹介します〉

- 「ウクライナ戦争論」読了しました。この戦争の見方が180度変わりました。ロシアは野蛮だから、プーチンは狂人だからなどというメディアの理由付けに違和感をもっていたのですが、この本を読んで、疑問の多くを解決できたように思います。何事もまずは疑ってみることが大事だと改めて気づかされた次第です。本当に有難うございます。
- 昨日先生の「ウクライナ戦争論」を拝受しました。ネット上のIWJ(岩上安身キャスター)等YouTubeや孫崎亨氏やエマニュエル・トッドの著書から、我々が騙されていることに気づいたのは2023年になってからでした。それ以来ずっと断片情報でなく遺漏なくフェイクを暴露したこうした情報を渴望していました。だから先生の「ウクライナ戦争論」は、一気に読みました。ウクライナ問題に対する先生のご見識に全面的に共鳴します。
- Fukushima クライシス後の、先生のご活動にも、心からの感謝と敬意を表します！ボクも乏しい資料と拙い表現で、「ウクライナ戦争」については書いてきているのですが、科学的・実証的・客観的にエヴィデンスと共に訴えておられるこの冊子を、なんとしても広めたく思います。
- 元外務官僚の東郷和彦さん：「小生が全く知らなかった情報を含め、誠にいま日本人が少しでも読んでほしいものだと思います」。
- 貴著の新版『ウクライナ戦争論』を拝受、感動と共に読ませて頂きました。私は一応ロシア語も分かるので、日常的にロシアのテレグラムやドンバス・ニュース等を見聞きし、日本の報道の酷さに日々驚愕、辟易していますが、貴著で初めて知る事も数多く、その真実探求心に感服し、全てに「懐疑心」を持ちながらも、貴著を今後の活動に活かして行ければと思いました。
- 貴著『ウクライナ戦争論』を拝読して、感動しました。知らない事実があり、目からうろこが落ちました。是非とも拡散したいと思います。20冊お送り下さい。
- 先日は『ウクライナ戦争論』を早速送って頂き、ありがとうございました。只々驚くばかりで拝読いたしました。よくもまあ何も知らずに能天気居たものだと思ながら呆れー。あと6冊追加でお願いいたします。
- エマニュエル・トッド氏にも通じる先生の分析と発言に感激しています。勇気をお送りいただき、ありがとうございます。